

ガラス再資源化協議会（GRCJ）

平成11年度部会活動概要（報告）

ガラス再資源化協議会（The Glass Recycling Committee of Japan）は平成11年6月7日関係諸官庁のご指導のもとに、廃ガラスリサイクル製品の開発・研究企業および当該製品の積極的採用を企業倫理に掲げる35の企業・団体のご賛同を得て設立された業界団体です。尚、11年度末現在の加盟団体・企業数は48に達しております。

本会の設立目的は、定款第1条に明記されている通り、資源循環型社会の構築に向けて、ガラス再資源化の多用途利用促進であります。

其の具体的活動部門として下記を主業務とする「技術部会」および「マーケティング部会」を協議会内に設置し、発足・活動を開始した。

記

I：技術部会 部会長：友澤 史紀（東京大学工学部建築学科教授）

1-1：主業務

- (1) 廃ガラス利用技術の研究
- (2) 研究成果発表および報告の出版
- (3) 関連特許の調査
- (4) JIS. JASS. JAS. PL. ISO等の適合調査

1-2：第1回技術部会総会及び技術報告会（平成11年9月29日） 約100名出席

(1) 来賓祝辞

(社)経済団体連合会 環境安全委員会 廃棄物部会

(2) 技術部会長記念講演「リサイクル技術の現状について」

(3) 技術報告

・「学会報告を中心とした軽量骨材の動向」

明治大学理工学部 建築学科助教授 菊地 雅史

・「特許から見た廃ガラスリサイクル」

宇高特許事務所 代表 宇高 克巳

・「Gライトの基本物性について」

太平洋セメント(株)佐倉研究所 中西 博

・「NEDO-1：CO2排出抑制型廃ガラス高度利用システム研究開発-1」

東陶機器(株) タイル建材開発部長 佐伯 義光

・「NEDO-1：CO2排出抑制型廃ガラス高度利用システム研究開発-2」

(株)INAX 建材技術研究所 渡辺 修

・「建設業界におけるリサイクルの現状」

(株)竹中工務店 総本店 設計部長 常務取締役 村松 映一

・「Gライトを用いた吸音材について」

日本ガイシ(株) 環境装置事業部 騒音関連担当部長 古賀 正輔

騒音防止技術課長 国枝 純雄

(4) 懇親会の開催

関係各方面から激励のお言葉を賜ると共に、出席者間で有意義な意見交換が実施された。

3 : 第2回技術部会 (平成12年3月21日) 約90名参加

(1) 技術報告

- ・「異分野から排出される廃ガラスの混合材を超軽量建設骨材への材料適合化試験報告」(科学技術振興財団 研究テーマ)

茨城大学工学部 都市システム工学科教授 福沢 公夫

茨城県工業技術センター窯業指導所

主席研究員兼資源環境部長 安藤 康生

- ・「コンクリート製浮栈橋をリサイクル骨材を用いた水に浮く超軽量コンクリートで実用化」

(株)フジタ技術センター 計画材料研究部 主任研究員 青木 治雄

- ・「廃ガラス発泡骨材を用いたコンクリートの増設耐震壁への適用」

東京都立大学助教授 大学院建築工学科材料研究室 橘高 義典

- ・「CO2 排出抑制型廃ガラス高度利用システム研究開発 - 1999 年度成果報告

(株)INAX 建材技術研究所 窯業技術研究室 主幹 渡辺 修

II : マーケティング部会 部会長 : 栗原 史郎 (一橋大学商学部教授)

2 - 1 : 主業務

- (1) サステイナブルデザイン設計指針研究・他用途利用の推進
- (2) 公共工事への環境調和型商品の提案
- (3) 公共出版物への記事掲載及び開放出版等の PR 活動
- (4) 海外を含む関連法案の調査
- (5) 地方自治体等の環境基準作成への資料提供と援助
- (6) 環境評価手法の研究

2 - 2 ; 第1回マーケティング部会・発足記念講演会 (平成12年2月10日)

約100名参加

(1) 記念講演

- ・「静脈産業革命と本部会発足の意義」

一橋大学 商学部教授 栗原 史郎

- ・「循環型社会の構築に向けての建設省プロジェクトの試み」

建設省 建築研究所 第二部長 檜野 紀元

- ・「新規大学キャンパス総合設計における環境設計の哲学」

滋賀県立大 環境科学部 環境計画学科教授 小林 正美

- ・「環境会計」

日本 IBM 環境部次長 岡本 亨二

(2) 懇親会の開催

各界出席者の現状報告と今後の対応計画が表明なされ、和やかな雰囲気な中で出席者間の情報交換が実施された。

2 - 3 : ガラス再資源化協議会の広報活動

- (1) 「積算資料・特別号」(11年3月)に「ガラスリサイクルの現状と展望-資源循環型リサイクルをめざして」を投稿。

- (2) 「建設物価」(12年12月号)に「循環型廃ガラス再資源化環境技術の現状と開発報告の研究の方向」を投稿し、併せて資源循環型社会の構築に貢献する企業・製品群のPRを掲載した。

- (3) 11年12月10~12日にグランメッセ熊本で開催された「熊本県民環境フェスティバル」にガラス再資源化製品群を展示して協議会をPRした。

- (4) GRCJパンフレット(モノクロ)の作成 (1,000部)

- (5) RCJパンフレット(カラー)の作成 (3,000部)新たに環境調和型製品紹介を添付した。

- (6) Jマーケティング部会委員名刺作成 (12社35名)

以上